



おにぎり通信

2018年2月10日(土曜) 四ツ谷おにぎり仲間

こんにちは！私たちは毎週土曜日に、四ツ谷周辺と銀座、日比谷公園、東京駅周辺で生活されている方々を訪問しているボランティアグループです。

今年は厳しい寒さの日が続いていますが、先日気象庁から発表された予報によると、この寒さも2月中旬頃には平年並みの気温に落ち着いてくるということです。東京の過去の平均気温のデータを見ると、1年で一番寒いのは1月23日～28日頃で、これを過ぎると徐々に暖かくなりはじめて、2月中旬頃からは、一日一日と暖かくなっていきます。最近では異常気象で、過去のデータや予報が当てにならないことも多いですが、予報・データ通りに暖かくなってくれることが願われます。

☆1月29日(月) 福祉行動報告

どなたもお見えになりませんでした。

☆次の月曜日(2月12日)は、祝日のため福祉行動はありません。

次回の福祉行動:2月19日(月)

東京駅丸の内南口地下に朝8時30分までに集合してください。車輪の前

に「おにぎり通信」を持った者が待機しますので、声をかけてください。病気や

ケガの治療を希望される方や体を休めたい方と一緒に「福祉事務所」まで同行します。

福祉行動は原則、毎週月曜日に行います。

福祉行動は、参加される方が、ご自身の希望をご自身の言葉でハッキリと福祉事務所に伝えることで成り立ちます。

最寄の福祉事務所

中央区福祉事務所...中央区築地 1-1-1 中央区役所4階

千代田区福祉事務所...千代田区九段南1-2-1 3階

【短歌】

しるし もの おも ひとつき にご さけ の
 験なき 物を思わずは 一杯の 濁れる酒を 飲むべくあるらし

この歌の意味は、「悩んでもなんの役にも立たない物思いなどしないで、一杯の濁った酒でも飲んだ方がまし」といった感じですが。因みに、「濁れる酒」というのは安酒のことで、上質な澄んだ酒でなくても酒でさえあれば、ということが表現されています。この歌は一千年以上前に作られて万葉集に載っており、昔から酒好きの人びとが愛唱してきた名歌ですが、人間は今も昔も変わらないものだなと感じます。いつの時代も、いろいろな人がいろいろな悩みを抱えながら、お酒の力も少し借りつつ、頑張っ生きてきたということかと思ひます。

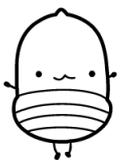
歌は、世界中のさまざまな地域でそれぞれの形で進化を遂げてきていますが、日本では五七五七七の音で整えられた短歌が、万葉集の頃には主流となりました。万葉集に収められている歌の9割以上は短歌です。例えば、

こせやま つばき み おも こせ はるの
 巨勢山の つらつら 椿 つらつらに 見つつ思わな 巨勢の春野を

という歌は、椿がたくさん咲く春の野を想って詠まれたものですが、響きが印象的で、五七音のリズムの良い歌です。日本語の五音七音はそれ自体がリズムのある音数であり、標語であっても演歌の歌詞でも人の心にすっと入ってきます。そのため、歌の形も自然と短歌にまとまっていったと考えられます。

この味が いいねと君が 言ったから 七月六日は サラダ記念日

の歌で有名な歌人の俵万智さん曰く、短歌を詠むはじめての一步は、心の「揺れ」とのこと。どんな小さなことでもなにかしら「あっ」と感じる気持ちがあると、その「あっ」が種になって歌は生まれてくる。「あっ」がなかったら、どんなにがんばって言葉を並べても歌にはならず、逆に「あっ」がありさえすれば、上手下手はあっても、必ず歌になるそうです。歌というのは、いかなる民族にもみられるもっとも普遍的な文化ですが、日本人に流れている五七音のリズムに合わせて、日常のちょっとした「あっ」という思いを短歌にしてみたら、何か面白いものが出来るかもしれません。



おにぎりを包んでいるラップや読み終わった通信は放置せず、ゴミ箱に入れるなど、片付けにご協力をお願いいたします。おにぎりは必ずその日のうちにお召し上り下さい。また、お1人1個でお願いします。

よつや なかま れんらくさき
 四ツ谷おにぎり仲間 連絡先：080-7795-8535